

2023 年度 第 1 四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) 2023 年度 Q1 実績について、社内計画との差異は。

A) 事業セグメント利益は全社で 100 億円上振れた。そのうち 20 億円が為替のプラス影響によるもの。実質ベースでは、マシナリー事業・P&H 事業を除く 4 事業が上振れ、特に P&S 事業の上振れ幅が大きかった。

Q) 通期予想を据え置いた背景は。

A) 先行きが不透明であるため、現時点では売上・利益とも据え置いた。為替の動向、P&S 事業の需要、産業機器の中国の市況回復の時期などを見極めるには、もう少し時間を要すると判断した。

Q) Q2 以降の見立てについて事業別に教えてほしい。

A) P&S 事業は、Q1 の堅調さが継続するかどうか不透明。産業機器は、市況回復は下期以降になると想定しており、Q2 は引き続き厳しくなる見込み。P&H 事業は、9 月以降のセールスシーズンで挽回し、黒字回復したい。N&C 事業は新型コロナウイルス感染症の 5 類移行にともない、引き続き堅調に推移する見込み。

Q) P&S 事業の事業セグメント利益が対計画で上振れた要因は。

A) 消耗品が上振れた影響が大きい。欧州では値上げ前の駆け込み需要もあった。加えて、製品本体の販売がスローであったため、固定費・販促費を使わなかった影響もある。

Q) P&S 事業について、製品本体の販売が比較的堅調に見えるが、その背景は。

A) 2022 年度は供給不足の影響が一部残っていた。それが解消したにもかかわらず、2023 年度 Q1 の売上は前年同期並みにとどまった。市況は全世界的に厳しく、計画に対しては未達だった。

Q) P&S 事業について、プリントボリューム（PV）など、実需の状況は。

A) ペーパーレス化により、年々 PV が減少していく傾向は変わっていない。ただ、お客さまの製品本体の使用期間が延びており、想定していたよりも市場での稼働台数（MIF）が減っていない。それが消耗品の販売につながっていると推察している。

Q) P&S 事業では消耗品の値上げ前の駆け込み需要があったとのことだが、チャネル在庫の水準は適正か。

A) 中国以外の地域は適正水準。欧州は、駆け込み需要により、一時的に水準が上がっているが、適正の範囲内。米国もチャネルが在庫を抑える状況にあったが、現在は適正水準となっている。一方、中国では、セルアウトが弱く、チャネル在庫が過剰傾向。適正水準まで回復するには、年内いっぱいかかると見ている。

Q) P&S 事業の Q2 以降の見立ては。

A) 市況は全世界で冷え込んでいるが、来期以降の消耗品のために製品本体の販売を強化していく必要があり、Q2 以降はプロモーションなどを実施する予定。Q1 と同水準の利益を確保できるかは不透明。

Q) マシナリー事業について、売上が大幅に減少した割に利益を確保できた理由は。

A) マシナリー事業は、景気変動の影響を受けやすいが、景気が厳しい時にも利益を確保できるよう努めている。成長のための投資を着実に行いつつも、意識的に固定費をコントロールし（固定費を軽くしてなるべく変動費にするなど）、景気変動の影響を最小限にしている。

Q) ドミノ事業について、対計画で事業セグメント利益が上振れた背景、Q2 以降の継続性は。

A) C&M を中心に消耗品・アフターサービスが堅調に推移したことより利益が上振れた。Q2 以降もトレーサビリティに関する需要は底堅く、売上は堅調に推移すると見ている。ただ、下期に基幹システムの更新費用が発生するため、利益水準は下がる見込み。